

## 内部情報系仮想化基盤への業務システム構築について

### (1) 対象範囲と役割分担について

仮想化基盤及び業務システムの対象範囲（下図）と、各事業者の役割分担（下表）は次のとおりです。

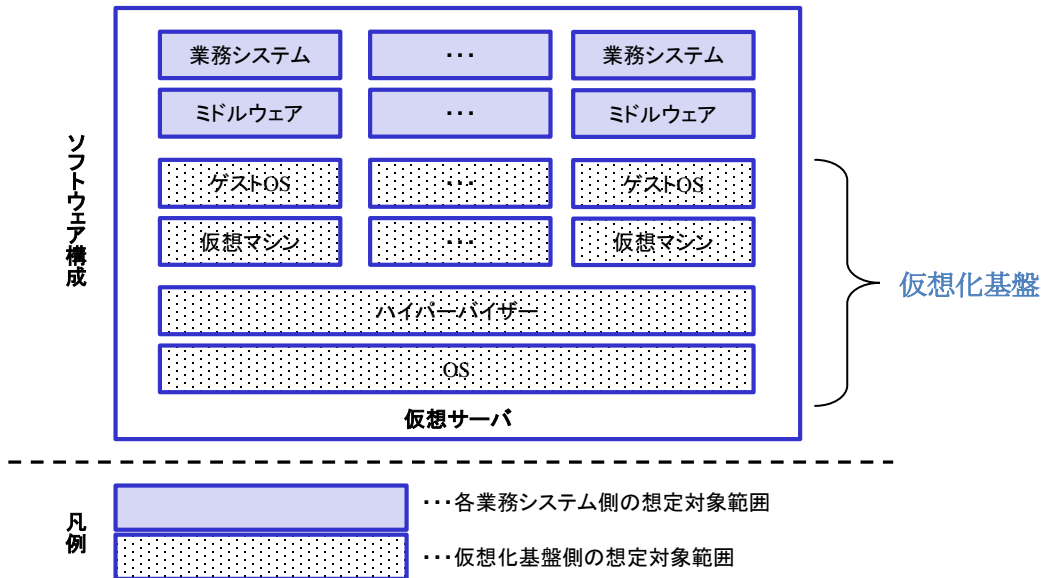


図 1. 仮想化基盤及び業務システムの対象範囲

表 1. 各事業者の役割分担

	情報政策課 仮想化基盤事業者	システム主管課・ 業務システム事業者
物理サーバ	構築・保守・運用	
OS	構築・保守・運用	
ハイパーバイザー	構築・保守・運用	
仮想マシン	構築・保守・運用	
ゲストOS ※	構築（切り出し）	初期設定・保守・運用
ミドルウェア		構築・保守・運用
業務システム		構築・保守・運用
障害対応	（保守担当部分の） 切り分け・復旧	（保守担当部分の） 切り分け・復旧

※ゲストOSの切り出しまでを仮想化基盤の対象範囲とし、実際の初期設定作業やその後のシステム保守・運用フェーズにおける設定変更作業等のメンテナンスについては業務システム側の対象とします。

(2) システム構築に係る前提事項

業務システム構築に係る前提事項は以下のとおりです。

	前提事項								
システム構成	Web システムとしてください。なお、クライアント／サーバ型のシステムを導入したい場合は、その実現手段として、区が用意した仮想サーバ上に仮想デスクトップ環境を構築して、同環境にてクライアント機能を実現することを認めます。								
クライアント	原則、文書作成用 PC (Windows7・Internet Explorer 8・Office2010) を利用してください。								
ハードウェア	<p>必要な資源 (CPU, メモリなど) については情報政策課との協議が必要です。</p> <p>(1) 仮想マシン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮想マシン 1 台のスペックは以下のとおりです。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>仮想マシン 1 台あたりのリソース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CPU(MHz)</td> <td>1,100</td> </tr> <tr> <td>メモリ(MB)</td> <td>1,350</td> </tr> <tr> <td>ストレージ(GB)</td> <td>105</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ハイパーバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮想化ソフトウェアは、VMware 社の「VMware vSphere ESXi 5.5」です。</li> <li>仮想化環境の管理用ソフトウェアは、「VMware vCenter Server」です。</li> </ul>	項目	仮想マシン 1 台あたりのリソース	CPU(MHz)	1,100	メモリ(MB)	1,350	ストレージ(GB)	105
項目	仮想マシン 1 台あたりのリソース								
CPU(MHz)	1,100								
メモリ(MB)	1,350								
ストレージ(GB)	105								
OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイパーバイザーが対応しているゲスト OS を導入してください。</li> <li>港区では Windows Server 2012 DataCenter を仮想化基盤に導入済みですので、WindowsServer2012、WindowsServer2008R2、WindowsServer2008 の何れかであれば情報政策課よりライセンスの提供が可能です。それ以外の OS を導入する場合は、別途ライセンスの調達が必要です。なお、Windows Server OS にかかる Microsoft 社とのサポート契約については仮想化基盤側で締結するため、各システムで調達する必要はありません。</li> </ul>								
ソフトウェア	利用する各種ソフトウェアについて「VMware vSphere ESXi 5.5」上での動作保証が必要です。								
保守	仮想サーバ上で保守を行ってください。								
運用	<p>(1) バックアップ・リストア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮想化基盤側で包括バックアップを行い、RPO24 時間、RTO 1 時間のサービスレベルを確保しています。</li> <li>※RPO (Recovery Point Objective) : システム障害などでデータが損壊した際に、復旧するバックアップデータの古さの目標値。</li> <li>※RTO (Recovery Time Objective) : 障害などで停止した際、復旧するまでの目標時間。</li> <li>・障害対応で前日のバックアップ時点にシステムを戻す場合は、情報政策課、及び、内部情報系仮想化基盤事業者が対応します。</li> </ul>								

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮想化基盤のデータ複製機能で日次でバックアップを取得しています。</li> </ul>
CAL	<p>文書作成用パソコンを利用する場合には情報政策課が保持するCALを利用します。</p>
ウイルス対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮想化基盤全体にウイルス対策ソフト「Trend Micro Deep Security」を導入していますので、別途ウイルス対策ソフトウェアを導入する必要はありません。ウイルス対策ソフトのアップデートと定義ファイル更新は、情報政策課・仮想化基盤事業者で対応します。</li> </ul>

以上